

平成21年7月1日

(第68号)

鵜

戸

暑中お見舞ひ申し上げます



887-0101

宮崎県日南市宮浦3232

0987-29-1001 FAX0987-29-1003

鵜戸神宮ホームページ

<http://www.btvn.ne.jp/~udojingu/>

発行者兼編集者
鵜戸神宮社務所

大御心と尊皇の至誠



宮司 本部雅裕

天皇陛下におかせられましては、本年めでたく御即位二十年の佳節をお迎へあそばされました。まことにおめでたく心からお慶びを申し上げます。

当、鵜戸神宮は初代神武天皇の御父君を主祭神としてお祀り申し上げてをりますが、今上陛下は皇太子の御砌、昭和天皇は昭和四十八年にご親拝をいただきなど、皇室の方々のたび重なるご参拝を忝なくして現在に至っております。

ところで過日、日南市で株式会社「キッチン」を経営してをられる石井勝範さんが社務所にお見えになりました。石井さんは、「宮



【昭和17年頃の参道】

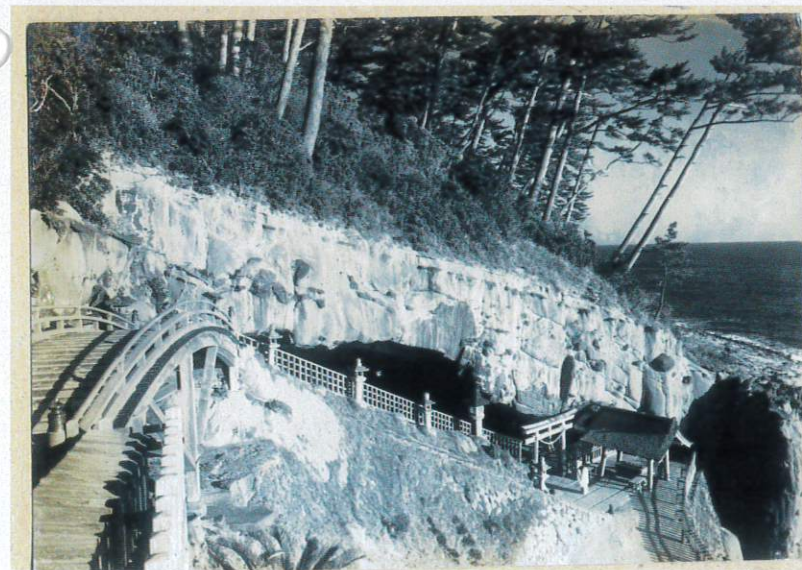
司さんは大正天皇が宮崎にお出でになったことをご存じですか。実は天皇に真清水を献上した記念碑も残っております。当時の人々が真心込めてお出迎へした事実を今の人はもつと知るべき

です」と言はれて帰ってゆかれました。

当神宮史には、明治四十年に皇太子殿下行啓の記事はあるのですが、昭和四十五年の社務所の焼失により古文書は失はれ、その詳細は不明でした。そこで私は、宮崎県立図書館で『宮崎縣行啓誌』の中から「明治四十年四月三十日」の記事を見つけたことができました。その文書には、皇太子旗高く翻る御召艦「香取」に乗船された皇太子殿下には、永井宮崎県知事、伊東子爵を始めとして、油津、大堂津、目井津の海浜に集合し

た数万の奉迎者が万歳してお出迎へするうちに、日向灘にお着きになった様子などが記されてをりました。

なところをこの文書から以下に引いてみます。「付近村民ハ奉迎ノ準備ニ熱中シ吹毛井海岸御上陸場迄二棧橋ヲ建設シ道路ハ勾配ヲ緩ニシ自然石代フルニ切石ヲ以テシ全ク通路ノ危険ヲ去リ」、



【昭和17年頃 玉橋より本殿岩窟を望む風景】

※写真左下に下駄箱があり、これより先は履き物を脱いで参拝してゐた

「社務所ハ御座所ニ供スルノ目的ヲ以テ大修繕ヲ加へ」て、当日、宮司高橋宇太郎は幣帛料、神饌料を内殿の案上に供へ、神職をはじめ鵜戸村の奉迎者は整列してお迎へしようとしておりました。ところが吹毛井の中崎に準備した煙火二十一発を打ち上げ、御召艦がよいよ近づかうとするとき、「当時北風強く前日來ノ波浪未タ全ク収マラズ御危険ノ虞アルヲ以テ俄ニ御参拝御見合トナリ」、東宮侍従の御代拝となつたので

この記述から、鵜戸村の人々は御召艦から鵜戸の海岸まで皇太子殿下が乗り換えられるための舢や棧橋を新たに造り、港はもとより八丁坂の参道を総出で掃除したこと。またご参拝が安全に行はれるやう参道敷石を取り替へ、社務所は皇太子殿下の御休み所となるので大改修を行ったこと。な

どが分かります。

急遽、侍従は皇太子殿下の代参を命じられ、御召艦より新造の舢に乗り換へ、宮司の案内により代拝をすませて急ぎ帰艦されるのであります。

残念ながらこの文書には、石井社長が言はれる「真清水献上」の記述はないのですが、きつと地区内の最も清浄な井戸から湧き出る水が、潔斎された若人の手によって汲まれ、御召艦香取の皇太子殿下の御元へ届けられたこととせう。

私たちはこの佳節にあたり、このやうな民の一途な営みを通して尊皇の至誠を貫かうとしてきた歴史と、畏くも聖上には、賢所の祭祀を通して国家国民の平安を日夜お祈りいただいておるといふ、「君民一体」の麗しい国柄に改めて思ひを致さなければならぬと思ふのであります。

例 祭 齋 行

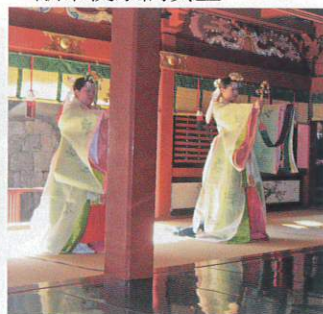
暖かな日差しが境内を明るく照らし、新年を向かへた参詣者で賑はふ中、二月一日、午前十時三十分より齋行。祭典に先立ち柳生新影流兵法長岡鎮廣師範他により剣舞が奉納された。

約百八十名参列の中、祝詞奏上や巫女による「浦安の舞」が奏舞されると参拝者は皆立ち止まり、また雅楽の音色や舞の優美な動きに大変感動してゐた。来年二月一日はぜひご参拝いただき、この祭典独特の緊張感や雅な音色を体感してみたいかがでせうか。



参 進

献幣使祭詞奏上





四月十三日、大阪府知事・橋下徹氏が多忙なスケジュールの中、ご参拝された。知事は宮崎県の視察のために来県され、県南の名

所を代表する当神宮へ足を運ばれた。知事は本殿に到着後早速正式参拝をされ、由緒の説明をうけた後、「運玉投げ」

大阪府知事

橋下徹氏ご参拝

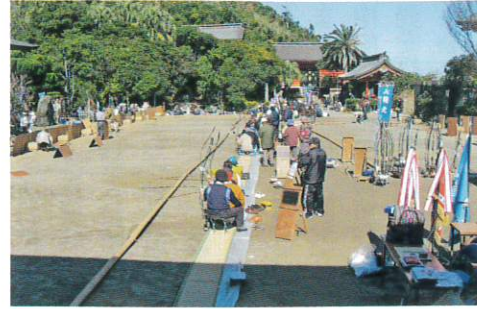
をされました。この時偶然大阪から旅行で参拝に来宮した方々やその他大勢の参拝者に囲まれたが、気さくなお人柄により笑ひを交へて交流され、しばし和やかな時間を過ごされた後、次の予定地へと向かはれた。



お宮には多くの方が参拝されますが、こと来賓室での応接はとても重要であります。当神宮では、本年より巫女を対象に、日常に利用できる作法を身につける為、富澤会長にご指導頂くこととなった。会長は茶道を修得されてをり、講習日には、動作・心構へなど心身両面からの確なご指導をいただいております。

敬神婦人会

富澤会長作法指導



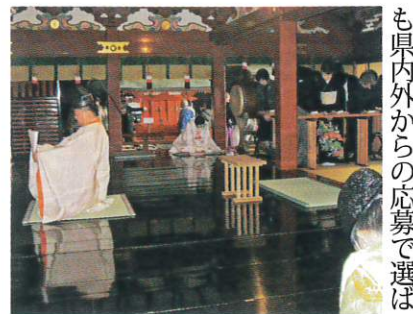
鵜戸山頭彰剣道大会 例祭奉納四半的大会

二月一日の例祭に合はせ同日午前九時より四半的大会を開催。県内外より大勢のチームが参加し、会場広場周辺は多くの参加者で終日賑わってゐた。
八日には第五十六回目となる剣道大会が開催された。今回は一一五チーム、個人一三五名に関係者を含めて、総勢二二〇〇名が鵜戸神宮へと集結した。

どの大会も白熱した試合となり、例祭を祝ふにふさわしい盛り上がりとなった。

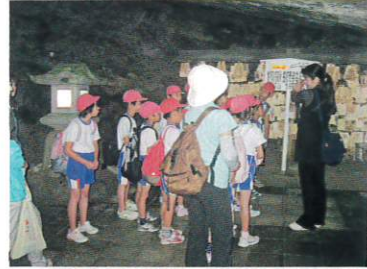
シャンシャン馬道中唄全国大会 シャンシャン馬道中再現

民謡「シャンシャン馬道中唄」の全国大会決勝戦が、三月三十日当神宮儀式殿にて行はれた。
大会は今年で二十三回目となり、前日に行はれた約四〇〇名参加の予選会で、各部ごとに勝ち抜いた二一六名が会場を埋め、熟練された歌声で終日盛り上がった。



境内では、明治中頃まで風習として行はれてゐた「シャンシャン馬道中」の鵜戸さん参りを再現。本年も県内外からの応募で選ばれた一組の新婚夫婦が参加。今選ばれた吉田直史・美里夫妻は当時の装ひをして御本殿にて結婚式を挙げ、その後、再現会場へと移動。花婿が鈴飾りを着けた馬の手綱を取って花嫁が乗馬。大勢の参拝者から暖かな拍手が送られた。
お二人はこの日に挙式を計画され、見事に選ばれて夢がかない、再現ではなく現実の鵜戸さん詣りとなったのでした。





鵜戸地区周辺には、全国に自慢できるすばらしい自然や歴史がたくさんある。先生方は、子供達にこのすばらしさを実感してもらいたいと、五月二十九日、地元鵜戸小学校の元気な生徒十六名が、うど詣りの名所であり難所の八丁坂参道を通り、約五十分かけて来宮した。生徒は、鵜戸山の歴史などを真剣に聞き、時には質問するな

ど、とても有意義な時間を過ごした。お参りの後は運玉投げに挑戦、その後雅楽の生演奏と楽器体験を行った。そして、生徒に内緒で巫女に扮した先生が神話の読み聞かせを行った。どれも生徒にとって初めての事ばかりで貴重な体験となった。

(同行)
吉岡先生
酒井先生
大平先生
大西先生
(助勢)
松田さん
高橋さん

鵜戸小学校一〇四年生 春の自然体験学習・歴史文化めぐり

巫女 福山詩織
平成二年九月二十四日生
日南農林高校卒
鵜戸神宮の巫女として、言葉遣ひに注意し、常に笑顔を心がけ、ご参拜の方に「また来たい」と思はれるようご奉仕してまいります。



巫女 荒武美成
平成二年九月二十一日生
日南振徳商業高校卒
笑顔・気配り・挨拶を心がけ、全国的に有名な鵜戸神宮でご奉仕出来ることに誇りを持って頑張ります。



新職員紹介

陛下御即位20年記念事業 参道復旧工事

当神宮の撮影ポイントのひとつである楼門の海側(写真右側)の欄干脇斜面が崩壊しました。
《経緯》………
平成十九年七月十四日、台風四号による高波・風雨での斜面下部崩壊。
八月二日、台風五号による崩壊部の被害拡大(楼門脇斜面上部崩落並びに石段に亀裂発生、欄干が傾く。楼門右側立ち入り禁止となる。)



また、楼門の右側石段の備担当職員を始め、当宮のよき理解者である代議士や取り巻く多くの方のご尽力を賜り、平成二十年八月より復旧工事を開始、今年三月に無事岸壁工事を終了した。

亀裂や陥没について宮司は「毎日たくさんの参拝者がこの楼門を通るがこの状況では皆様に危険や不安を与へてしまふ。安心してお参りしていただきたい。」との思ひから、天皇陛下御即位二十年の佳節の奉祝記念事業として、石段改修工事を打行ふこととした。

そこで鵜戸神宮維持の為のご協力を氏子崇敬者、またご参拝の皆様、現状をご理解の上、御協賛をお願ひしたところ、全国からたくさんの方のあたたかなご協力を得ることができました。おかげをもちまして今年四月に、楼門石段はともきれいに整備されました。ご協力頂きました皆様に紙面をもちまして厚く御礼申し上げます。



新名物!!

運だめし登場

鵜戸神宮ご参拝記念の名物といえば、お札所で授与している健康長寿、また妊婦の方はおちちの出がよくなるとして有名なドロップ状の「おちちあめ」があり、境内の売店ではキャラメル仕立ての物も販売されてゐる。



さて、今回紹介致しますのは、鵜戸さん詣りの新たな名物として登場した和菓子の「運だめし」である。宮崎市内で有名な老舗菓子店「金城堂」が考案し、当

参拝者の多くは、御本殿参拝の後に「運玉投げ」で運だめしをして楽しいひとときを過ごすのが定番となっております。

参拝者の多くは、御本殿参拝の後に「運玉投げ」で運だめしをして楽しいひとときを過ごすのが定番となっております。

なんと、この和菓子の「運だめし」にも食べるときの決まりがあります。とてもユニークなその決まりごととはふたの裏に説明が書いてあり……。誠に申し訳ございません

「運玉投げ」には決まりがあり、投げるときには男性左手、女性は右手で、願ひを込めて一個ずつ投げます。

神宮に制作相談に来宮。当神宮も協力を約束して後老舗職人としての気合ひを指先に集中させ、試行錯誤の結果見事に完成。昨年七月三十一日にご神前にて奉告祭を斎行し、幸運を呼ぶ菓子として販売が開始された。形や色は本物そっくりの造りで、外はしっかりと存在感のある食感、そして中にはふんわりとした上質の白いアンが入ってゐて、舌触りがとてもやさしく出来てゐます。



んが、あへてここに明記する事を控へますので、ぜひお買ひ求めいただき、この名物「運だめし」を楽しく食してみてください。

金城堂「運だめし」

【問い合わせ先】

0985-24-4305

※境内店舗「三ツ和荘」でもお求めいただけます
注) 数量に限定あり

編集後記

○表紙の写真は、ご祭神の鎮まります洞内へ向かふ参道の第一の門、神門脇より撮影しました。早朝五時すぎ、なかなか見ることのない情景でしたのでシャッターを押ししました。青く澄んだ風景も綺麗ですが、暖かな日差しもコントラストもこれまたいいものである。○ご参拝お待ちしております。